

有明海水産資源回復技術確立事業*

アゲマキ増養殖技術開発試験 (天然アゲマキ調査)

重久剛佑

有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ *Sinonovacula constricta* は、平成元年から原因不明の大量斃死が発生し、平成6年以降天然資源が激減している。このため、資源回復を目的として、平成8年度から種苗生産及び放流技術の開発に取り組み¹⁾、特に平成21年度からは本事業により、放流技術開発の一環として、稚貝の大量生産・放流を行っている。これら一連の事業では、放流によって母貝集団を創出し、再生産サイクルの構築を目指しており、その効果を把握するため天然アゲマキの生息状況調査を行ったので報告する。

方法

天然アゲマキ調査は、令和3年8月～9月に、有明海佐賀県沿岸域の48地点で、1m×100mの踏査を行い、アゲマキの巣穴開口部を計数した。また、各地点30個を上限としてアゲマキを採取し、殻長を測定した。

結果

天然アゲマキ調査の結果を図1に、採取した個体の殻長組成を図2に示す。天然個体が確認されたのは県西部の3地点であり、県中東部および南部では、確認されず、昨年より資源量が大幅に減少した²⁾。

採取されたアゲマキは、4個体で殻長35.2mm、殻長42mm、56.1mm、殻長64.2mmであり、当歳貝および2歳貝と推定された。

文献

- 1) 佃 政則・神崎博幸・津城啓子・福元 亨・梅田智樹・荒巻 裕・伊藤史郎 (2017) : 佐賀県有明海沿岸におけるアゲマキ分布の変遷, 佐有水研報. (28), 47-49.
- 2) 野間昌平・大庭元気・佃 政則 (2020) : アゲマキ増養殖技術開発試験 (天然アゲマキ調査), 佐有水業報. (2), 23.

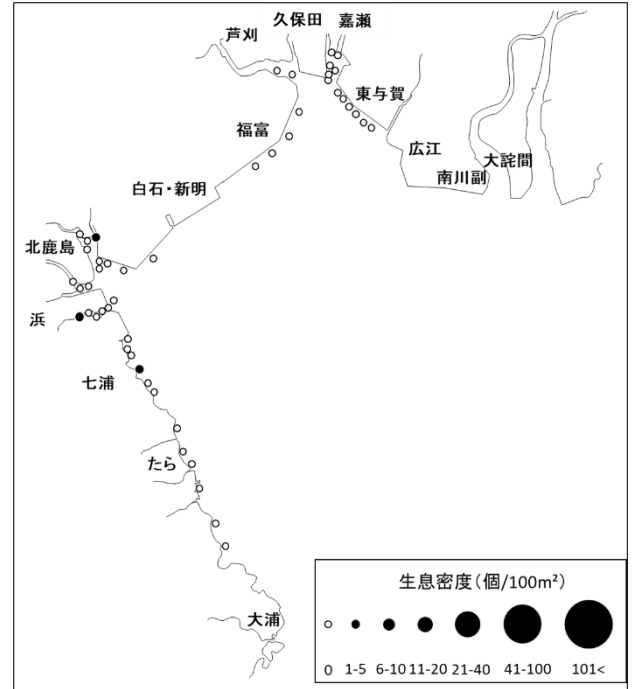


図1 天然アゲマキ調査結果

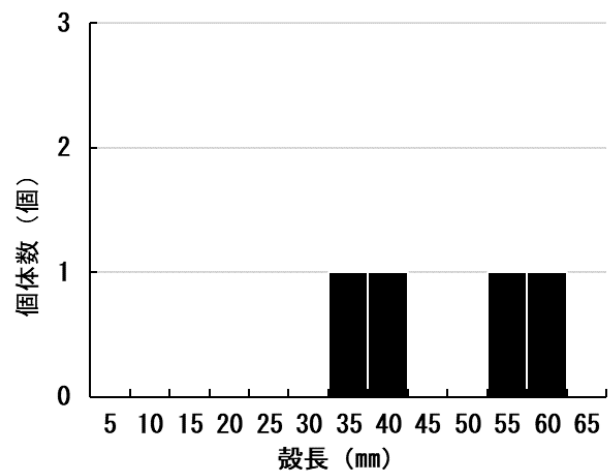


図2 採取個体の殻長測定結果